

## 第 1 回小学校部会要旨録

1. 開催日時	平成 30 年 7 月 23 日（月） 13：00～14：45	
2. 場 所	小矢部市役所 2 階 特別会議室	
3. 出席委員	教育長職務代理者 教育委員 小矢部市自治会連合会代表 小矢部市 P T A 連絡協議会副会長 小矢部市女性団体連絡協議会会長 小矢部市商工会会長 小矢部市民生委員児童委員協議会代表 小矢部市小・中学校長会会長 小矢部市社会教育委員会議議長 社会福祉法人小矢部市社会福祉協議会会長 公募委員	古村 正明 西永 勉 松本 信明 高嶋 成幸 嶋田 幸恵 新明 政夫 松本 陽子 笹島 康代 高橋 久雄 日光 久悦 山崎 勇
オブザーバー	富山国際大学子ども育成学部教授	仲井 文之
4. 事務局	教育長 事務局長 教育総務課 次長兼課長 課長補佐 主査 指導主事	野澤 敏夫 砂田 克宏  間ヶ数昌浩 瀧田将一郎 早助 昭 吉倉 哲夫
5. 会議次第	(1) 開会 (2) 委員委嘱 (3) 部会長あいさつ (4) 協議 ① 県内小中学校の児童生徒数、学級数及び教員数について ② 学級編制基準と現状について ③ 少人数学級の効果についての各考察について ④ 学級編制基準に対する教育関係諸団体の要望・決議の状況について ⑤ 小矢部市における児童生徒数・学級数についての現場の声について ⑥ 少人数指導の状況について ⑦ 特別支援教育の状況について	

	<p>⑧保育所(こども園)と小学校の連携状況について</p> <p>⑨家庭訪問(戸別訪問)の状況について</p> <p>⑩教員一人当たりの児童生徒数の状況について</p> <p>⑪教員異動の状況について</p> <p>⑫学校規模によるメリット・デメリットについて</p> <p>⑬学校統廃合の手引きについて</p>
6. 開 会	
報告(事務局)	統廃合審議会小学校部会委員の変更について報告。
部会長の選出	松本信明委員を小学校部会 部会長に選出。
協議	【進行 部会長】
事務局	<p>協議事項1 「県内小中学校の児童生徒数、学級数及び教員数について」、</p> <p>協議事項2 「学級編制基準と現状について」、</p> <p>協議事項3 「少人数学級の効果についての各考察について」、</p> <p>協議事項4 「学級編制基準に対する教育関係諸団体の要望・決議の状況について」、</p> <p>事務局説明</p>
委員	統廃合審議会において少人数学級等はどのようにとらえていったらよいのでしょうか。私自身、統廃合とは別の話であると思っています。
事務局	統廃合を考える先に、今、小矢部市のおかれている現状を委員のみなさまにお伝えしたいと思っています。日本全体の流れとしては、子どもたちの学びを考えたときに、1学級当たり人数の少人数化を求める声が各方面から出されており、各都道府県でも少人数化に向けた独自の取組みが進められてきているという状況を案内し、これからの検討にあたっていただくうえの参考にさせていただきたいと思っております。
委員	児童生徒数や学級数、学級編成基準などいろいろ比較した表がでているのですが、今日本はゆとりのある時期に入ってきたというこ

	<p>とで、これまでの基準に比べると1学級当たりの児童生徒数など大変穏やかになってきているわけですが、これを国際比較すると、日本は非常に悪いというか、平均学級規模が高くなっています。よく考えてみると、一番大事なのは、国の基準がこれでよいのかということだと思えます。国際的な状況と比較した場合にも、日本の基準は高いのですが、この国の基準に対して、県がどうだとか市がどうだとか言っているように私は受け止めています。ですから各学年にどれほどの人数がふさわしいのか、ということを考えていかなければいけません。また、数字だけではなくて、質的なソフトの面も加味しながら考えていかなければいけないと思えます。統廃合のこととなると、財政問題について話が主に流れることとなりますが、学校の質を高めるといっても考えていかなければいけないと思えます。ハードを考えると同時に中身の質も考えて適正な学校はどうあるべきかというのを話していかなければいけないのかなと思えます。</p>
事務局	<p>学級編成の基準は、国が標準的に示す基準を受けて各県が独自の基準を作っています。全国的な流れは少人数化が段々進んでいる状況が見て取れます。この基準について、これからも少人数化を進める方向をめざしていくことになると思われまます。ただし、この基準を決めることができるのはあくまでも県ですので、県に対し要望をしていくことが必要ではないかと思っております。もう1点、学校の質を高めるといふことにつきましても、このあと、学校の状況についても説明をさせていただきますので、そちらも合わせてご意見をいただければと思えます。</p>
事務局	<p>協議事項5 「小矢部市における児童生徒数・学級数についての現場の声について」、  協議事項6 「少人数指導の状況について」、  協議事項7 「特別支援教育の状況について」、  協議事項8 「保育所(こども園)と小学校の連携状況について」、  協議事項9 「家庭訪問(戸別訪問)の状況について」、  事務局説明</p>
委員	<p>15 ページの「5 小矢部市における児童生徒数・学級数についての現場の声」のところで、「1学級あたり25名前後で3学級あれ</p>

ば良い」という意見がありますが、これは学校の統廃合を考えるとときにはとても大事な現場の声ではないかなと思いました。みなさまはどのように思われましたでしょうか。先生方の思いを活かすためには、国の基準を下げていただければ、このような問題の解決に近づいていくわけですが、すぐに基準が下がることは大変難しいと思います。しかし、現場の声を大事にしていかなければいけないと思います。先ほど少人数学級の話が出ておりましたが、一方、少人数指導のほうは、「加配」ということでの措置ですから、これは時によっては打ち切られるかもしれないという不安があります。安定した人数を確保するためには、少人数学級を一番前面に出して、それをまた細かに少人数指導していくという流れがよいのかなと思っています。国は、加配に伴う指導を少人数学級にするのか、指導にするのかは現場に任せているような感じです。15 ページの現場の声のところをしっかりと受け止めていかなければいけないと思います。これは学校統廃合の問題に絡んだ重要な部分だと思って見ておりました。

事務局

15 ページの現場の声は、あくまで理想的な環境として校長が述べたものです。いろんな要素が入ってきますので、これを 100 パーセント満たそうとしたら、これは小矢部市だと小学校も 1 つでよいということにもなりかねませんので、これはあくまでこういう理想があること、それに近づける中で、その他の要因はどうかということも含めて考えるうえでの 1 つの材料として提示させていただいたものとして受け止めていただければと思います。現実には、小矢部市では 30 人以下の学級がほとんどになっております。例えばどこかの学校とどこかの学校がくっついたら、先生たちが理想としているものと比較してどういう状況になるのかなと考えていただくときの参考数字として捉えていただくとありがたいと思っています。

委員

これまでの流れを見ていて、今お聞きしていることは協議することではないと思います。今は聞いておくところだと思いました。これを踏まえて小矢部市はどうするかという協議をすべきものと思います。これは材料であって協議する事項ではないと思います。今日は次の段階のときにこれをもとにして小矢部はどうするかという協議をするための材料を聞いているだけだと思います。

<p>教育長</p>	<p>そのとおりです。現状を把握していただいた上で、次の段階で価値判断に入っていただきたいと思っております。したがって現状を説明させていただいているときに、頭の中で統廃合をしたらどうなるかということ想像しながら聞いていただければありがたいと思っております。いろんな観点から説明させていただきますが、今日はすぐに結論を出す場ではありませんので、何か現状の中で疑問なり、気づかれた点なりがあれば発言していただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>何もわからないで審議はできないということであろうと思えます。結構、実態はこうであったのかというものもありました。そこで学校の先生自体が統廃合をどう思っているのか、PTAの方がどう思っているのか、最終的にはそれらのご意見は聞かせていただけるのでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>そのことについては、第1回統廃合審議会の「今後の審議会の進め方」の資料で説明させていただきましたように、順次、テーマごとに進めていきたいと考えています。まず今回は学校の学習面のことについて理解を深める、次回はハード面である施設等について、3回目は地域との関わりについてです。これらを踏まえた上で4回目には、いくつかの統廃合のパターン、あるいは現状のままの場合について資料をお示ししますので、それらを比較検討していく、そういうような手順を踏んでいきたいと考えています。その後、今、委員がおっしゃられたように、その次は学校の先生方との意見交換会、次は保護者の方々との意見交換会、さらに地域の方との意見交換会を進めていく予定になっております。そしてその意見交換会に委員のみなさんがどのような形で参加していくのか、それはいろいろなやり方があると思えますので、それは3回目の全体会でその方法を1度議論していただき、その結果に基づいてそれぞれの3つの意見交換会に臨んでいただきたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>すぐには変更されないであろう国の基準がある訳ですが、その中でも、どこまで小矢部市が独自に補填してまでもできるのかということが分かった上での議論をしたいと思っております。また石動小学校が新しくなった中で今後どうしていくかというのは、周りの小学</p>

	<p>校の現状を見据えながら進めていく必要があると思いました。今日のお話では子どもたちの現状や国際比較などが見えてきていますので、いろいろと考えさせられる部分もあったと思っております。</p>
事務局	<p>協議事項 10 「教員一人当たりの児童生徒数の状況について」、 協議事項 11 「教員異動の状況について」、 事務局説明</p> <p>【質疑なし】</p>
事務局	<p>協議事項 12 「学校規模によるメリット・デメリットについて」、 協議事項 13 「学校統廃合の手引きについて」、 事務局説明</p> <p>【質疑なし】</p>
その他要望等	
委員	<p>詳細な報告をいただきました。市当局におかれましては、小矢部市のためということもありますが、そこで学んでいる子どもたちのためということをしっかり考えて資料をお作りになっていると感じまして大変嬉しく思っております。もし追加するとすれば、この間、A小学校の校長先生たちとお話をしておりましたら、1学期の間、全員出席という日が非常にたくさん続いておるそうです。これについては、校長も驚いておられまして、子供達は非常にしっかり学んでいると思いました。また、子ども1人あたりの図書の貸し出しは、小矢部市で1番です。これも特筆すべきことだと思っております。今後進めていくにあたって思うことは、学校は教育施設であり、他の公共施設とは若干違うのではないかという点です。いわゆる施設という同じようなくくりだけでとらえては、間違った判断をする可能性があります。これからの子どもたちのためにも、しっかりご提示いただいた内容も頭にいれながら、今後の方向についてみなさんと共に協議していきたいと思っております。</p>
委員	<p>気を付けないといけないと感じたところがあります。この資料の中には文部科学省が提示しているものとか、小矢部市が調べた意見</p>

等がありますが、これだけでまともにとらえるのは危険であると思っております。先ほども委員さんがおっしゃったように各校には特色があると思います。おそらくそこには学校の良い部分があると思われれます。それをこのような協議に持ち込むべきではないのかもしれませんが、いざ無くすであるとか、くっつけるということになったら、教職員や親御さんからは、委員さんが先ほど言われた特色の部分を残したいという意見が多くなると思います。私達は、少しはそういう意見も踏まえて考えていかなければいけないと感じました。

教育長

今ほどの各学校の特徴についてしっかりと見て考えるべきではないかという指摘は非常に大事だと思いました。この統廃合審議会を進めるにあたって、私が思っていることが3つあります。1つは、長期的な視点をもつことについてです。岩尾滝小学校を除くその他の小中学校の統廃合は、約40年前です。したがって統廃合を1回すると、その学校は40年、50年続くということになります。そうすると40年、50年先の学校はどういうふうになっていくだろうか、どういう学校づくりをしていくのか、そういうような思いを持って考えていく必要があると思っております。長期的な視野が大切だと思います。2つ目には、人それぞれに様々な価値判断があると思います。従って、どの点が大事であるかは委員のみなさん、それぞれだと思います。本日はいろいろな視点からの現状の資料を出ささせていただきました。その中でどれが子どもたちにとって大事であるのか、皆さんそれぞれの幅広い視野と見識で考えていただきたいと思います。最後に3点目として、前回の中学校部会の際に質問がございましたので、それに対して答えたこととお話したいと思います。それは、新しい総合計画を今小矢部市は作っておりますが、それとの関係はどうなるのかという質問でした。今現在、小矢部市は第6次総合計画をもとに施策を進めておりますが、今年がその最終年度です。今作っているのは来年から向こう10年の第7次総合計画です。今年、第7次総合計画を作りますので、この統廃合審議会の答申が出される来年の11月とは1年間ずれることになります。それをどう考えるのかという質問でした。これまでの事例によれば、総合計画の初年度には向こう10年間の実施計画を作りますが、2年ないし3年経った段階でローリングということを行ってきました。ローリングは実施計画に載せている全ての事業について、こ

	<p>のまま進めてよいのか、あるいは新しいものを加える必要がないかという見直しを行うものです。従って、今年度中に第7次総合計画を作りますけれども、今後のローリングのときにこの審議会の答申が反映されていくものと思っております。また、市では公共施設再編計画を作りましたが、その中では学校施設については、「統廃合審議会の答申を待って検討する」と記載してあります。そういう点からもこの統廃合審議会の答申のあり方というものが、今後の小矢部市の教育について一番大事なベースになっていくと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>今日説明を聞いてとてもショックを受けたのは特別支援学級の状況でした。たとえば少人数にして統廃合をしなかったら、この特別支援学級の状況が良くなっていけるのか、また、どうしてこういう状況が起こっているのかということを知る必要があると思いました。もう少し、どういう状況でどういう対応をされたら、どういう改善が見られたのかなどについての情報を出していただければありがたいと思います。</p>
委員	<p>このあとの進め方なのですが、次の段階では当局の案などが出され、それを叩き台にして進めていくのですか、それともゼロからスタートしていくのですか。</p>
教育長	<p>先程も申し上げたように、第1回目の資料の中で審議会の進め方を説明させていただきました。今日は学習面の状況について説明をさせていただきましたが、次回は学校の施設面について説明致します。3回目は地域との関係です。これは例えば避難所として各学校はどれほどの収容人数を確保しているのか、あるいは地域の伝統文化と子どもたちの関わりがどういう状況なのかなどをお話します。4回目にいくつかのパターンを比較検討したものをお出しします。それらを踏まえて、またみなさんにご意見をいただきたいと考えています。</p>
委員	<p>今の話では、まだ統廃合ありきの話ではないということですね。</p>
教育長	<p>1回目の審議会でもお話しましたように、まずは予断をもちずフラットに考えていただきたいと思います。いろんな面の資料をお出</p>



事務局	<p>ししますので、自分の気づかなかった面はこういうところだった、こんな考えもあるのかなど、いろいろな考え方、視点を吸収していただき、その上で4回目にお出しするいくつかの案についてご協議いただきたいと思います。</p> <p>【次回日程案説明】</p> <p>【委員了承】</p> <p>【閉会】</p>
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------